

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 6 日現在

機関番号：32301

研究種目：基盤研究 C

研究期間：2010 年度 ～ 2012 年度

課題番号：22592614

研究課題名（和文） 看護職者のストレスセルフマネジメントに活かす看護場面でのライフスキル尺度の開発

研究課題名（英文） Development of the life skill scale in the nursing scene which is useful for a nurse's stress self-management

研究代表者

高橋 ゆかり (TAKAHASHI YUKARI) 上武大学・看護学部・教授

研究者番号：40341812

研究成果の概要（和文）：

看護学生が獲得しておきたい、ストレスセルフマネジメント能力を測定する尺度を開発した。独自に開発した尺度は、「問題解決スキル」「批判的思考スキル」「対人関係スキル」「創造的思考スキル」の4因子24項目を6件法で尋ね、信頼性および妥当性は確保された。看護師および看護学生が用いるストレスセルフマネジメントスキルのうち、「問題解決スキル」「批判的思考スキル」がストレスマネジメントに有意な影響を与えていた。

研究成果の概要（英文）：

I developed a scale to measure ability for stress self-management that a nursing student wanted to get. The scale that I developed heard 24 questions consisting of four factors of the " Problem solving skill" " Critical thinking skill" " Interpersonal relationship skill" "creative thinking skill" with six phases. The reliability of the scale and the validity were secured. In the stress self-management skills that a nurse and a nursing student used, a "Problem solving skill" "Critical thinking skill" had a meaningful influence on the stress management

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：地域・老年看護学

科研費の分科・細目：精神看護学

キーワード：Sense of Coherence / ストレス / セルフマネジメント / ライフスキル / 尺度作成 / 看護職者

1. 研究開始当初の背景

(1) 著しい医療環境の変化に伴い、看護基礎教育の現場では看護師育成にあたり様々な専門的能力の獲得が求められる。そのような中、看護学生は不安やストレスを抱えながら

臨地実習をはじめとした専門的学習をしており、効果的なストレス対処法を身につけることは、メンタルヘルスにおけるセルフマネジメントの視点からも重要である。

(2)WHO が提唱するライフスキルは、日常生活での問題や要求を建設的に対処するために必要な心理社会的能力とされるが、看護基礎教育の場面におけるライフスキル教育の活用や研究報告は殆どみられない。

2. 研究の目的

(1)看護学生が獲得しておきたい能力の一つにライフスキルを位置づけ、看護場面におけるストレスセルフマネジメントスキルを測定する尺度を開発する。

(2)看護職者のストレスに対するセルフマネジメント能力とライフスキルとの関連を明らかにする。

3. 研究の方法

(1)研究1：尺度項目作成と予備調査

①尺度項目作成：看護師の臨床でのストレスセルフマネジメントに用いるライフスキルについて、5つの概念枠組み<自己認識><問題解決スキル><対人関係スキル><クリティカル思考><感情対処>を用いた。

臨床でのストレス場面は「職場の人的環境」「看護師の倫理的役割」「医師との関係」「患者との関係」「業務の量的負担」「業務の質的負担」の6カテゴリ30場面想定し、5つの概念によるライフスキルを用いた対処で構成した150項目、6件法を作成した。

②予備調査：調査は病院勤務看護師を対象とし、ライフスキル項目、属性、ストレス対処能力 Sense of Coherence (以下SOC) 尺度短縮版からなる調査票を用い、無記名留置法で実施した。

(2)研究2：本調査-信頼性・妥当性の検討

①調査対象：調査協力の得られた施設の看護師および看護学生を対象に実施した。

②調査内容：看護職者のためのストレスセルフマネジメントスキル尺度(独自に作成した「問題解決スキル」「批判的思考スキル」「対人関係スキル」「創造的思考スキル」の4因子24項目6件法)、日本語版SOC尺度短縮版(山崎ら)、ハーディネス尺度(多田・濱野)、General Coping Questionnaire(GCQ)特性版(佐々木・山崎)、相互独立的-相互協調的自己観尺度(高田)、批判的思考態度尺度(平山・楠見)、自己肯定感尺度(樋口)、属性(性別・年齢)他。

③調査方法：対象者には任意の無記名留置法および郵送法で実施した。

④分析方法：因子分析による構成概念妥当性の検討、 α 係数による信頼性の検討、関連尺

度との相関分析による基準関連妥当性の検討を実施した。

⑤倫理的配慮：研究者所属施設の研究倫理委員会の承認を得て行い、書面にてその旨を提示した。

(3)研究3：看護師および看護学生のストレスセルフマネジメントスキル

①対象者のストレスセルフマネジメントスキル得点の基礎集計および属性による分散分析、SOCとの相関分析を行った。

②看護職者のためのストレスセルフマネジメントスキル尺度の下位因子得点を独立変数、他尺度の下位因子得点を従属変数にした重回帰分析を行った。

4. 研究成果

(1)研究1：尺度項目作成と予備調査

①尺度項目作成

ストレス場面におけるライフスキル得点は、「看護師の倫理的役割」「業務の量的負担」「患者との関係」場面では、〈問題解決スキル〉が最も高く、「職場の人的環境」「医師との関係」「業務の質的負担」場面では、〈自己認識〉が最も高かった。

SOC得点の高低群でみたライフスキルの得点は、「職場の人的環境」場面では、全てのライフスキルでSOC高群に比べてSOC低群が高値を示し、「看護師の倫理的役割」場面では、全てのライフスキルでSOC高群に比べてSOC低群では低値を示していた。

また、SOC高低群でt検定を行った結果、「医師との関係」「業務の質的負担」「患者との関係」場面における〈クリティカル思考〉のライフスキル得点が、SOC低群に比べてSOC高群が有意に高値であった。

そこで、150項目の中でSOC尺度の下位因子得点と有意な正相関を認めた53項目を用いて予備調査を実施した。

②予備調査

看護師120名を対象に質問紙調査を実施(有効回収率104名:86.6%)。その結果、53項目を因子分析(主因子法、プロマックス回転)し、因子負荷量0.40以上を項目決定基準として、5因子41項目の因子解を抽出した。累積寄与率は54.02%であった。

抽出した因子は、第1因子「批判的思考によるスキル」、第2因子「看護職の役割遂行に必要なスキル」、第3因子「問題解決に必要なスキル」、第4因子「医師との関係構築に必要なスキル」、第5因子「自己認識によるスキル」と命名した。Cronbachの α 係数は、0.91、0.88、0.88、0.91、0.89であった。

(2) 研究 2 : 本調査-信頼性・妥当性の検討

調査協力の得られた施設の看護師および看護学生の計 774 名を対象に、択一式質問紙調査を実施(有効回収率 580 名:74.9%)した。

①構成概念妥当性および信頼性の検討

41 項目からなる看護職者のためのストレスセルフマネジメントスキル尺度を因子分析(主因子法、プロマックス回転)した結果、因子負荷量 0.55 以上を項目決定基準として、4 因子 24 項目の因子解を抽出した。累積寄与率は 55.2%であった。

抽出した因子は、第 1 因子「問題解決スキル」、第 2 因子「批判的思考スキル」、第 3 因子「対人関係スキル」、第 4 因子「創造的思考スキル」と命名した。Cronbach の α 係数は 0.90、0.90、0.78、0.86 であった。

②基準関連妥当性の検討

作成した尺度の構成概念と類似する下位因子をもつ既存尺度である、日本語版 SOC 尺度短縮版、相互独立的-相互協調的自己観尺度(高田)、ハーディネス尺度、General Coping Questionnaire (GCQ) 特性版、批判的思考態度尺度、自己肯定感尺度(樋口)を用いて、年齢・性別を制御した偏相関を分析した。

その結果、作成した尺度の下位因子は各尺度の下位因子との間で有意な相関を示し、基準関連妥当性が確保された(表 1)。

表 1 関連尺度との相関関係

	問題解決	批判的思考	対人関係	創造的思考
SOC 尺度	0.12 ***	0.13 **	0.18 ***	0.06
有意味感	0.37 ***	0.19 ***	0.26 ***	0.17 ***
把握可能感	-0.06	0.06	0.09 *	-0.04
処理可能感	0.00	0.07	0.09 *	0.03
相互独立性自己観尺度	0.29 ***	0.26 ***	0.21 ***	0.20 ***
独断性	0.25 ***	0.25 ***	0.17 ***	0.21 ***
個の認知・主張	0.26 ***	0.20 ***	0.20 ***	0.13 **
ハーディネス尺度	0.46 ***	0.31 ***	0.29 ***	0.35 ***
チャレンジ	0.37 ***	0.23 ***	0.22 ***	0.22 ***
コントロール	0.36 ***	0.32 ***	0.26 ***	0.39 ***
コミットメント	0.36 ***	0.19 ***	0.21 ***	0.23 ***
GCQ 尺度	0.45 ***	0.28 ***	0.38 ***	0.36 ***
感情表出	0.02	-0.03	0.10	0.05
情緒的サポート希求	0.28 ***	0.14 **	0.31 ***	0.25 ***
認知的再評価	0.40 ***	0.36 ***	0.30 ***	0.34 ***
問題解決	0.60 ***	0.36 ***	0.31 ***	0.38 ***
批判的思考態度尺度	0.44 ***	0.29 ***	0.26 ***	0.23 ***
論理的思考への自覚	0.18 ***	0.23 ***	0.15 **	0.08
探求心	0.42 ***	0.24 ***	0.21 ***	0.23 ***
客観性	0.44 ***	0.21 ***	0.27 ***	0.22 ***
証拠の重視	0.21 ***	0.14 **	0.10 *	0.14 **
自己肯定感尺度	0.28 ***	0.32 ***	0.24 ***	0.25 ***
自律	0.45 ***	0.33 ***	0.28 ***	0.28 ***
自信	0.01	0.21 ***	0.12 **	0.12 **
信頼	0.24 ***	0.15 **	0.19 ***	0.19 ***
過去受容	0.00	0.15 **	0.03	0.05

***: $p < .001$ **: $p < .01$ *: $p < .05$

(3) 研究 3 : 看護師および看護学生のストレスセルフマネジメントスキル

①対象別にみた各スキル得点

看護師および看護学生とも「問題解決スキル」が最も高く、「批判的思考スキル」が最も低く、全スキルで看護学生が看護師に比べ有意に高得点であった。

②臨床経験年数・学年別にみた各スキル得点

看護師の「対人関係スキル」は臨床経験年数 3 年未満の者はそれ以上の者に比べ有意に低得点であったが、他スキルで有意差は見られなかった(図 1)。

看護学生では全スキルで学年による有意差は見られなかった。

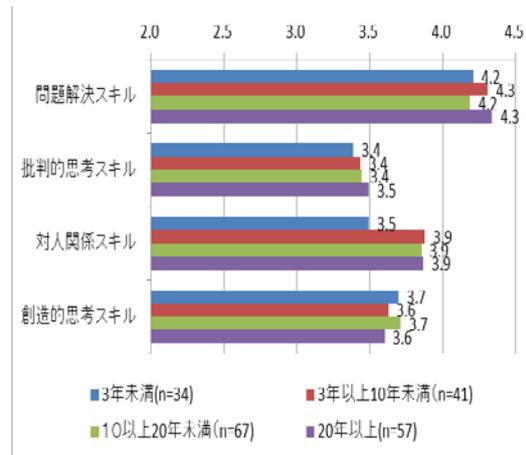


図 1 臨床経験年数別にみたスキル得点

③各スキルが SOC と下位因子に与える影響

看護職者のためのストレスセルフマネジメントスキル得点を独立変数、SOC 尺度得点および下位因子得点を従属変数にした重回帰分析の結果のパス図は図 2 の通りであった。

「対人関係スキル」の獲得が、SOC および下位因子に有意な影響を与えており、「創造的思考スキル」の有意な影響はみられなかった。

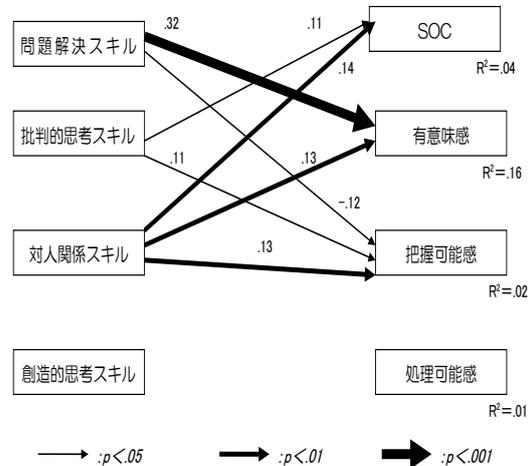


図 2 SOC に与える影響

④各スキルが相互独立的自己観と下位因子に与える影響

看護職者のためのストレスセルフマネジメントスキル得点を独立変数、相互協調的-独立的自己観尺度得点および下位因子得点を従属変数にした重回帰分析の結果のパス図は図3の通りであった。

「問題解決スキル」「批判的思考スキル」の獲得が、相互独立的自己観および下位因子に有意な影響を与えており、「創造的思考スキル」の影響はみられなかった。

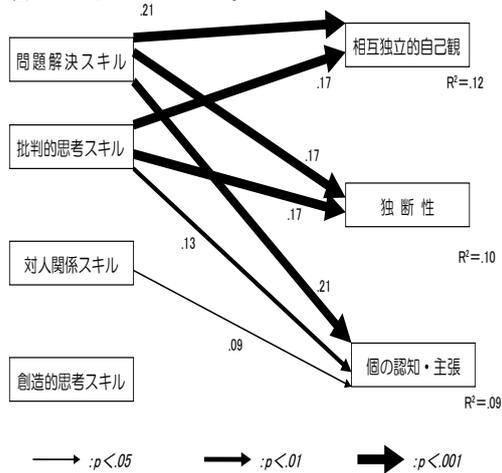


図3 相互独立的自己観に与える影響

⑤各スキルがGCQと下位因子に与える影響

看護職者のためのストレスセルフマネジメントスキル得点を独立変数、GCQ尺度得点および下位因子得点を従属変数にした重回帰分析の結果のパス図は図4の通りであった。

「問題解決スキル」「対人関係スキル」の獲得が、GCQおよび下位因子に有意な影響を与えていた。

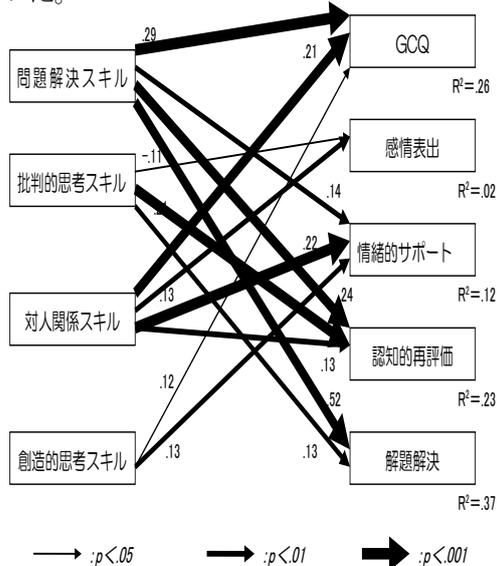


図4 GCQに与える影響

⑥各スキルがハーディネスと下位因子に与える影響

看護職者のためのストレスセルフマネジメントスキル得点を独立変数、ハーディネス尺度得点および下位因子得点を従属変数にした重回帰分析の結果のパス図は図5の通りであった。

「問題解決スキル」「批判的思考スキル」の獲得が、ハーディネスおよび下位因子に有意な影響を与えていた。「対人関係スキル」の影響は弱かった。

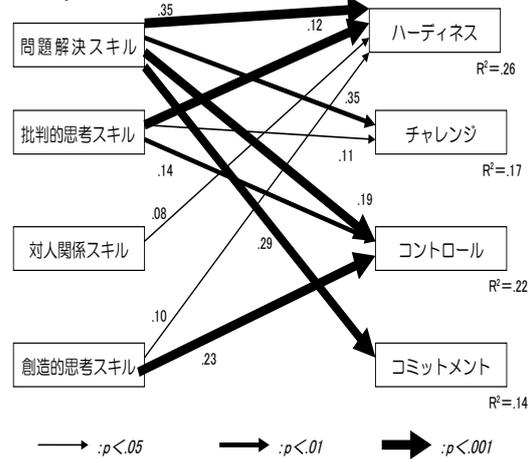


図5 ハーディネスに与える影響

⑦各スキルが批判的思考態度と下位因子に与える影響

看護職者のためのストレスセルフマネジメントスキル得点を独立変数、批判的思考態度尺度得点および下位因子得点を従属変数にした重回帰分析の結果のパス図は図6の通りであった。

「問題解決スキル」「批判的思考スキル」の獲得が、批判的思考態度および下位因子に有意な影響を与えていた。

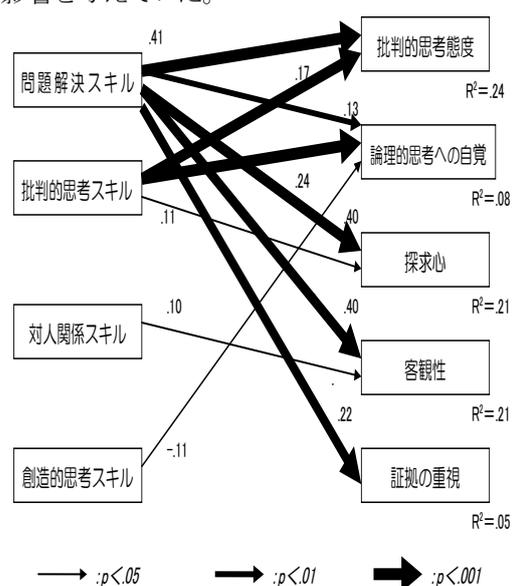


図6 批判的思考態度に与える影響

⑧各スキルが自己肯定感と下位因子に与える影響

看護職者のためのストレスセルフマネジメントスキル得点を独立変数、自己肯定感尺度得点および下位因子得点を従属変数にした重回帰分析の結果のパス図は図7の通りであった。

「問題解決スキル」「批判的思考スキル」の獲得が、自己肯定感および下位因子に有意な影響を与えており、「創造的思考スキル」の影響はみられなかった。

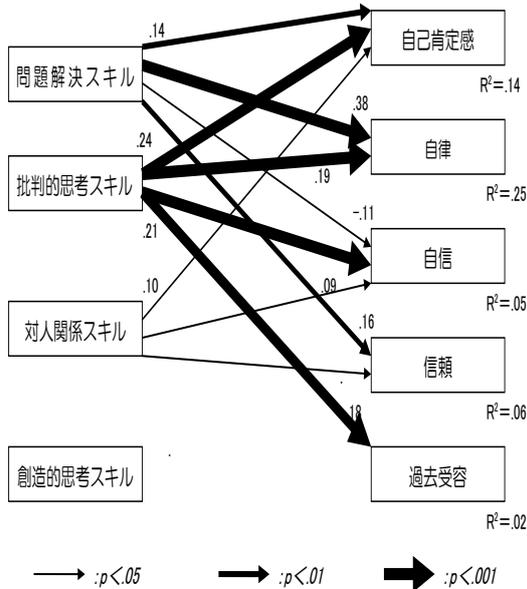


図7 自己肯定感に与える影響

⑨まとめ

独自に開発した看護職者のためのストレスセルフマネジメントスキル尺度は、「問題解決スキル」「批判的思考スキル」「対人関係スキル」「創造的思考スキル」の4因子構造であった。また、ストレス対処に関する既存尺との間で有意な相関を認め、一定の信頼性と妥当性を確保できた。

看護師および看護学生が用いるストレスセルフマネジメントスキルの中でも、「問題解決スキル」と「批判的思考スキル」が、ストレス対処に関連する要因に与える影響が大きく、これらのスキルを獲得することの必要性が示唆された。

今後は、看護職者のためのストレスセルフマネジメントスキル獲得に向けた教育プログラムの開発を行い、スキルを有効活用する指導方法を検討する。

⑩研究の限界と今後の課題

本研究においては、調査対象者の属性に関する変数が少なく、対象者の個人特性や職場環境などを踏まえた分析ができず、限界があった。今後は、対象者の属性を変数にいった分析ができるように調査を継続していく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

①高橋ゆかり、本江朝美、柴田和恵、古市清美、臨床看護師の自己肯定感とハーディネスおよび Sense of Coherence との関連、日本看護学会論文集(看護管理)、査読有、43、2013、371-374

②高橋ゆかり、本江朝美、古市清美、鹿村真理子、看護学生の批判的思考態度と日常生活スキルおよび自己肯定感との関連、日本看護学会論文集(看護教育)、査読有、43、2013、99-101

③高橋ゆかり、本江朝美、看護師がストレスセルフマネジメントに用いるライフスキルと SOC および日常生活行動との関連、ヘルスサイエンス研究、査読有、16 巻 1 号、2012、53-56

④高橋ゆかり、古市清美、本江朝美、高橋陽子、看護師がストレス場面で用いるライフスキルと Sense of Coherence との関連、日本看護学会論文集(看護管理)、査読有、42、2012、383-386

⑤高橋ゆかり、本江朝美、古市清美、臨床看護師におけるライフスキルとストレス対処能力、ヘルスサイエンス研究、査読有、15 巻 1 号、2011、71-76

〔学会発表〕(計13件)

①高橋ゆかり、臨床看護師の批判的思考態度とストレス対処能力およびストレス・コーピングとの関連、日本看護科学学会、2012 年 12 月 1 日、東京都

②高橋ゆかり、臨床看護師の文化的自己観と Sense of Coherence との関連、日本公衆衛生学会、2012 年 10 月 24 日、山口県

③高橋ゆかり、臨床看護師の自己肯定感とハーディネスおよび Sense of Coherence との関連、日本看護学会(看護管理)、2012 年 10 月 2 日、京都府

④高橋ゆかり、看護学生の批判的思考態度と日常生活スキルおよび自己肯定感との関連、日本看護学会(看護教育)、2012 年 9 月 5 日、岩手県

⑤高橋ゆかり、看護学生の日常生活スキルとハーディネスおよびコーピングとの関連、日本看護学教育学会、2012 年 8 月 4 日、熊本県

⑥本江朝美、看護学生の Sense of Coherence とハーディネスおよびコーピングとの関連、日本看護学教育学会、2012 年 8 月 4 日、熊本県

⑦高橋ゆかり、看護学生の日常生活スキルと Sense of Coherence との関連、日本看護研究学会、2012 年 7 月 7 日、沖縄県

⑧高橋ゆかり、看護師がストレスセルフマネジメントに用いるライフスキルと生活行動の関連、日本看護科学学会、2011 年 12 月 2

日、高知県

⑨高橋ゆかり、臨床看護師のストレスマネジメントに影響を与える要因 -脳番地を成長させる生活行動の視点から-、日本公衆衛生学会 2011 年 10 月 20 日、秋田県

⑩高橋ゆかり、看護師がストレス場面で用いるライフスキルと Sense of Coherence との関連、日本看護学会（看護管理）、2011 年 10 月 14 日、兵庫県

⑪高橋ゆかり、臨床看護師のストレス場面におけるライフスキル、日本看護学会（看護総合）、2011 年 9 月 9 日、千葉県

⑫高橋ゆかり、看護職者のストレスセルフマネジメントに活かす看護場面でのライフスキル尺度の開発、日本看護学教育学会、2011 年 8 月 30 日、埼玉県

⑬高橋ゆかり、看護師のストレスセルフマネジメントに用いるライフスキルと SOC との関連、日本看護研究学会、2011 年 8 月 7 日、神奈川県

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 ゆかり (TAKAHASHI YUKARI)
上武大学看護学部看護学科・教授
研究者番号：40341812

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

本江 朝美 (HONGO ASAMI)
静岡県立大学看護学部・教授
研究者番号：80300060

小泉 仁子 (KOIZUMI HITOMI)

筑波大学大学院人間総合科学研究科・准教授
研究者番号：20292964

(H22→H23 研究協力者)

(4) 研究協力者

鹿村 眞理子 (SHIKAMURA MARIKO)
和歌山県立医科大学保健看護学部・教授
研究者番号：10143207

柴田 和恵 (SHIBATA KAZUE)
天使大学看護栄養学部・准教授
研究者番号：10320558